

IN THE UNITED STATES PATENT AND TRADEMARK OFFICE

Applicant: Mamoru HASEBE                      Art Unit:  
Application No.: filed concurrently              Examiner:  
Filed        : September 25, 2003  
Title        : HANDLE ATTACHMENT STRUCTURE FOR BAG

Commissioner for Patents  
P.O. Box 1450  
Alexandria, VA 22313-1450

SUBMISSION OF PRIORITY DOCUMENT

Sir:

Under the provisions of 35 USC 119, applicant hereby claims the benefit of the filing date of Japanese Patent Application No. 2002-286187 filed on September 30, 2002.

In support of applicant's claim for priority, filed herewith is a certified copy of the Japanese priority document.

It is respectfully requested that the receipt of the certified copy attached hereto be acknowledged in this application.

If any fees are due in connection with this filing, please charge our Deposit Account No. 19-2586, referencing Attorney Docket Number 0103/002001.

Submission of Priority Document  
Application No.: filed concurrently  
Page 2

If there are any questions regarding this application, please  
telephone the undersigned at the telephone number listed below.

Respectfully submitted

Date: September 25, 2003

A handwritten signature in black ink, appearing to read 'R. A. Smith', written over a horizontal line.

Randolph A. Smith  
Reg. No. 32,548

**SMITH PATENT OFFICE**  
1901 Pennsylvania Ave., N.W.  
Suite 200  
Washington, D.C. 20006-3433  
Telephone: 202-530-5900  
Facsimile: 202-530-5902  
Hasebe092503

日 本 国 特 許 庁  
JAPAN PATENT OFFICE

別紙添付の書類に記載されている事項は下記の出願書類に記載されている事項と同一であることを証明する。

This is to certify that the annexed is a true copy of the following application as filed with this Office

出 願 年 月 日

Date of Application:

2002年 9月30日

出 願 番 号

Application Number:

特願2002-286187

[ ST.10/C ]:

[ JP2002-286187 ]

出 願 人

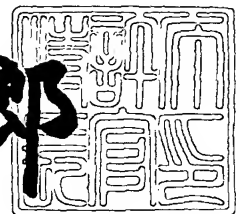
Applicant(s):

ヤマハ株式会社

2003年 6月23日

特 許 庁 長 官  
Commissioner,  
Japan Patent Office

太田信一郎



出証番号 出証特2003-3048488

【書類名】 特許願

【整理番号】 YAMC-30678

【あて先】 特許庁長官 殿

【国際特許分類】 A45C 13/26

【提出日】 平成14年 9月30日

【発明者】

【住所又は居所】 静岡県浜松市中沢町10番1号 ヤマハ株式会社内

【氏名】 長谷部 衛

【特許出願人】

【識別番号】 000004075

【氏名又は名称】 ヤマハ株式会社

【代理人】

【識別番号】 100062225

【弁理士】

【氏名又は名称】 秋元 輝雄

【電話番号】 03-3475-1501

【手数料の表示】

【予納台帳番号】 001580

【納付金額】 21,000円

【提出物件の目録】

【物件名】 明細書 1

【物件名】 図面 1

【物件名】 要約書 1

【包括委任状番号】 9704676

【ブルーフの要否】 要

【書類名】 明細書

【発明の名称】 かばん用提げ手の取付構造

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

かばん用提げ手の端部に設けた通孔を貫通する提げ手軸により軸支して、提げ手を回動自在にかばん本体へ取付けるかばん用提げ手の取付構造であって、

取付けに用いる取付金具の、提げ手の前記通孔を挟む位置に、前記通孔と中心が一致するように軸穴を設け、前記軸穴に直交貫通するように抜止め穴を設け、前記提げ手軸を前記軸穴に挿着した後、前記抜止め穴に抜止め軸を挿入することを特徴とするかばん用提げ手の取付構造。

【請求項 2】

請求項 1 に記載のかばん用提げ手の取付構造であって、前記取付金具に、かばん本体に固定するネジ止め穴を形成し、このネジ止め穴の延長上に前記抜止め穴を形成したことを特徴とするかばん用提げ手の取付構造。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】

本発明は、アタッシュケースやトランクケース等に取り付けられているかばん用提げ手の取付構造に関するものである。

【0002】

【従来の技術】

略コ字状に設けられているかばん用提げ手は、その両端部においてかばん本体に固定するための取付金具に提げ手軸を介して軸支され回動自在に支持されている。

提げ手の取付構造としては、例えば図 3 に示すように、提げ手 1 の端部 10 に予め所定径の通孔 11 を設ける一方、取付金具 2 には提げ手軸 4 を挿着するための軸穴 3 を、前記端部 10 が係入する係合凹所 20 を横断貫通するように一方外側から形成し、係合凹所 20 において前記通孔 11 をこの軸穴 3 と一連となるように配置した後、軸穴の差込口 31 から前記提げ手軸 4 を打ち込み等により無

理嵌挿通することによって、該提げ手 1 を回動自在に支持している。

この場合、前記軸穴 3 の内径と提げ手軸 4 の外径とは、挿着時の相互の摩擦作用により抜落不可とするために互いに精密に加工してあり、必要に応じては提げ手軸の後部周面にローレット加工を施すなどして設けられる。

また、前記軸穴 3 と提げ手軸 4 の双方にネジ加工を施して、提げ手軸をねじ着式の構造に設けたものもある。

#### 【0003】

この他にも提げ手軸を用いた取付構造は多数提供されており、その取付部分の強度を高めるために金属製の弾片付き補強枠を設け、この弾片で提げ手軸の脱落防止を図るとともに固定部材（取付部分）を補強してなる取付構造（例えば、特許文献 1。）や、取付金具を分割形成し、提げ手軸を貫通させた提げ手端部をこの取付金具で挟設状態にしてかばん本体に固定する構造のもの（例えば、特許文献 2。）、また、取付金具を固定支持片と可動支持片とに分割成形して、可動支持片側からばね付勢した提げ手軸を挿通させて提げ手を起立状態に保持させてなる取付構造（例えば、特許文献 3。）などが公知である。

#### 【0004】

【特許文献 1】 実公平 1 - 3 1 0 6 3 号公報

【特許文献 2】 実開平 2 - 8 6 3 1 8 号公報（第 4 - 5 頁、第 1 図）

【特許文献 3】 特開平 8 - 2 0 5 9 1 9 号公報

#### 【0005】

##### 【発明が解決しようとする課題】

図示したような従来の提げ手の取付構造では、提げ手軸と軸穴の成形に精密な加工精度が要求されることから、コスト高となるばかりでなく、取付けに係る作業性が悪いうえに加工精度にバラツキがあることから信頼性に欠けると云った問題点があった。

さらには、使用に際しての強度にも問題点を有していた。すなわち、前記提げ手軸はかばん本体の荷重を負う箇所であって使用時の振動等をも受けるため、それらの衝撃により軸穴との間に緩みが生じ易く、最悪の場合には提げ手軸が軸穴から抜け落ちて破損するような事態を招く虞れがあり、その修繕にも手間がかか

るものになっていた。

【0006】

また、先に挙げた特許文献1～3のような取付構造においても、提げ手の取付部分の強度を得るための補強的な部品を設けたり、或いは取付金具を分割成形することから、部品点数や組立の工程数が多くコスト高になっているのが現状であって、このような構造の複雑さが問題点として有り、また、使用時の強度においても上述したと同様な不安点が残るものとなっている。

【0007】

本発明は、上記した事情のもとになされたものであり、その目的とするところは、取付金具に軸穴と直交する抜止め穴を形成し、軸穴に挿着された提げ手軸の後端を前記抜止め穴に挿着する抜止め軸で後退不可とする構造とすることにより、簡単な構造であって精密な加工精度をも要せずに、組立の作業性向上と確実性が得られ、かつ、使用に際しては、振動などによる衝撃から生ずる提げ手軸の緩みなどによる抜け落ち等の虞れのない提げ手取付構造を提供することにある。

【0008】

【課題を解決するための手段】

上記した目的を達成するために、本発明は、かばん用提げ手の端部に設けた通孔を貫通する提げ手軸により軸支して、提げ手を回動自在にかばん本体へ取付けるかばん用提げ手の取付構造であって、取付けに用いる取付金具の、提げ手の前記通孔を挟む位置に、前記通孔と中心が一致するように軸穴を設け、前記軸穴に直交貫通するように抜止め穴を設け、前記提げ手軸を前記軸穴に挿着した後、前記抜止め穴に抜止め軸を挿入する取付構造とする、というものである。

【0009】

また、前記取付金具に、かばん本体に固定するネジ止め穴を形成し、このネジ止め穴の延長上に前記抜止め穴を形成する、いうものである。

【0010】

上記構成としたことにより、本発明によれば、精密な加工精度を要することなく簡単な構造であることから、部品の加工・組立等の作業性が向上するとともに確実性が得られ、使用に際しても、振動などの衝撃によって提げ手軸に多少の緩

み等が生じて軸穴から抜け落ちるような事態を招く虞れがなくなり、強度に富んだ信頼性のあるものとなる。

【 0 0 1 1 】

【発明の実施の形態】

以下、本発明の実施の形態を図 1 および図 2 を参照しながら詳細に説明する。

図 1 は、本発明の一実施形態を示すものであり、提げ手 1 にあっては、従来のものと同様にその端部 1 0 に予め所定径の通孔 1 1 が設けてある。

【 0 0 1 2 】

取付金具 2 には提げ手軸 4 を挿着するための軸穴 3 が、前記端部 1 0 が係入配置される係合凹所 2 0 を横断貫通するように一方外側を差込口 3 1 として形成されている。この軸穴 3 の形成にあたっては、例えば穴開け用ボール盤等によって穿設して内面を適度な仕上げ作業によって設ける程度のもので充分であり、必要以上に精密に仕上げることを要するものではない。

【 0 0 1 3 】

さらに前記軸穴 3 に対しては、その差込口 3 1 の近傍において、取付金具 2 の底部 2 1 側から穿設形成してなる抜止め穴 5 が直交して貫通するように設けられる。

【 0 0 1 4 】

この抜止め穴 5 の挿入口 5 1 から挿着されるのが抜止め軸 6 であり、該抜止め軸 6 の長さは、挿入口 5 1 の開口部分から前記軸穴 3 を塞いで通過して装着されるのに足る寸法に設定してあり、概ね抜止め穴 5 の深さに略一致させてあれば良い。

【 0 0 1 5 】

また、この場合の抜止め穴 5 と抜止め軸 6 の互いの径寸法は、抜止め軸 6 が遊嵌状態であっても良く、抜止め穴 5 に適度に係合する程度に設定してあれば問題はない。

【 0 0 1 6 】

このように抜止め穴 5 と抜止め軸 6 とを設けたことから、軸穴 3 に挿通される前記提げ手軸 4 の長さ寸法も必然に決定される。



すなわち、提げ手軸 4 の長さ寸法は、軸穴への挿着時にその後端部 4 a が抜止め穴 5 に係らずに通過するように設定してある。

【 0 0 1 7 】

つぎに、かばん本体 B への提げ手 1 の取付け作業を手順を追って説明すると、まず、固定金具 2 の係合凹所 2 0 において提げ手 1 の通孔 1 1 を軸穴 3 と一連となるように配置した後、該軸穴 3 の差込口 3 1 から前記提げ手軸 4 を挿入し、その後端部 4 a が抜止め穴 5 を完全に通過してなる位置にまで押し込む。

次いで、抜止め穴 5 の挿入口 5 1 から抜止め軸 6 を挿入する。この段階において提げ手 1 は固定金具 2 において回動可能に軸支された状態となっている。

そして、かばん本体 B の内側から該取付金具 2 のネジ止め穴 7 に取付ネジ 8 をもって固定すれば取付作業は完了するものとなる。

【 0 0 1 8 】

軸穴 3 に挿着された提げ手軸 4 は、前記抜止め穴 5 に挿着された抜止め軸 6 によって後退不可となり、使用時に衝撃等を受けても抜け落ちるような虞れは生じないものとなる。

【 0 0 1 9 】

図 2 は、本発明の別の実施形態を示すものであり、前記抜止め穴 5 を取付金具 2 の底部に設けてあるネジ止め穴 7 の奥部に連設形成して構成するものである。

【 0 0 2 0 】

この場合の取付金具 2 にあっては、かばん本体 B に取付けるために設けてあるネジ止め穴 7 の軸線上に提げ手軸 4 が挿着される軸穴 3 が横断形成されているものであり、抜止め穴 5 は軸穴の差込口 3 1 に近い側に設けたネジ止め穴 7 ( 7 a ) の奥部に形成される。

【 0 0 2 1 】

図示したように、前記抜止め穴 5 は前記軸穴 3 を直交貫通しており、この抜止め穴の内径に適合させた抜止め軸 6 が貫装されるように設けてある。

【 0 0 2 2 】

抜止め軸 6 は、取付金具 2 のかばん本体 B への固定に際して取付ネジ 8 の螺着進度によって奥部にまで押し上げられるものとなり、したがって、その長さ寸法

は取付ネジ 8 の長さに対応させて設定される。

【 0 0 2 3 】

かばん本体 B への提げ手 1 の取付け作業は、前述した実施形態の場合と略同様の作業手順であり、取付ネジ 8 によるネジ止め作業によって抜止め軸 6 の抜け落ち防止が図られることから、より高い信頼性が得られるものとなる。

【 0 0 2 4 】

【発明の効果】

以上説明したように、本発明によれば、かばん用提げ手の端部に設けた通孔を貫通する提げ手軸により軸支して、提げ手を回動自在にかばん本体へ取付けるかばん用提げ手の取付構造であって、取付けに用いる前記取付金具の、提げ手の前記通孔を挟む位置に、前記通孔と中心が一致するように軸穴を設け、前記軸穴に直交貫通するように抜止め穴を設け、前記提げ手軸を前記軸穴に挿着した後、前記抜止め穴に抜止め軸を挿入する取付構造としたことにより、精密な加工精度を要することなく簡単な構造であることから、部品の加工・組立等の作業性が向上するとともに確実性が得られ、使用に際しても、振動などの衝撃によって提げ手軸に多少の緩み等が生じても軸穴から抜け落ちるような事態を招く虞れのない信頼性の高いものが得られるといった効果を奏するものとなる。

【図面の簡単な説明】

【図 1】 本発明の一実施形態を要部で示す断面図である。

【図 2】 本発明の別の実施形態を要部で示す断面図である。

【図 3】 従来の提げ手の取付構造の一例を要部で示す断面図である。

【符号の説明】

1 …… 提げ手

1 1 …… 通孔

2 …… 取付金具

2 0 …… 係合凹所

3 …… 軸穴

3 1 …… 差込口

4 …… 提げ手軸

5 …… 抜止め穴

5 1 …… 挿入口

6 …… 抜止め軸

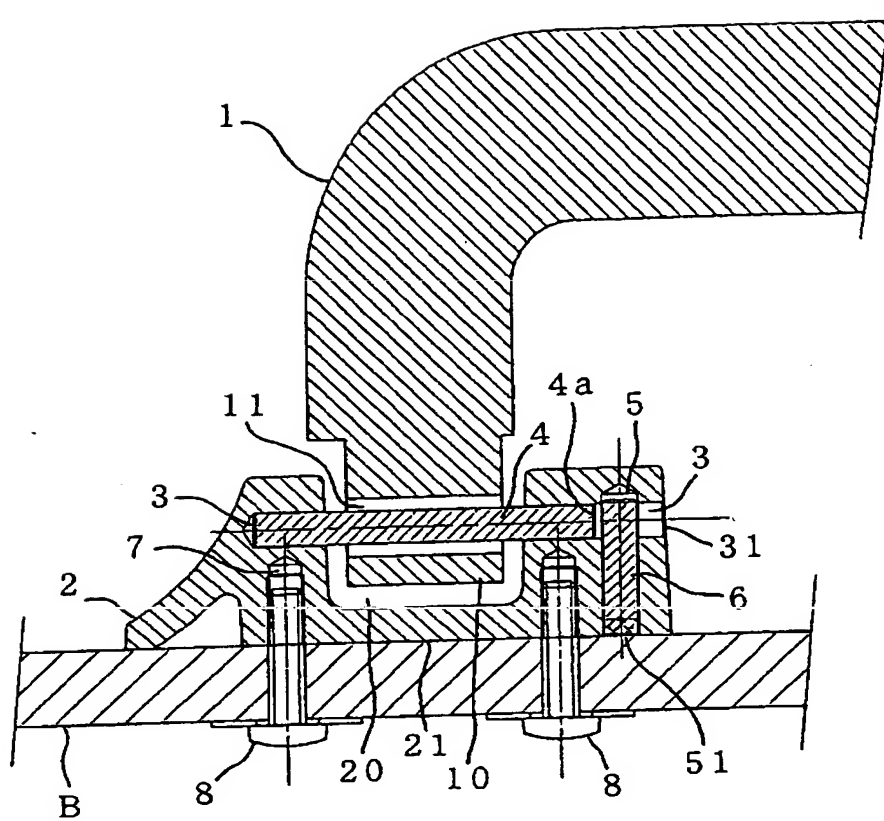
7 …… ネジ止め穴

8 …… 取付ネジ

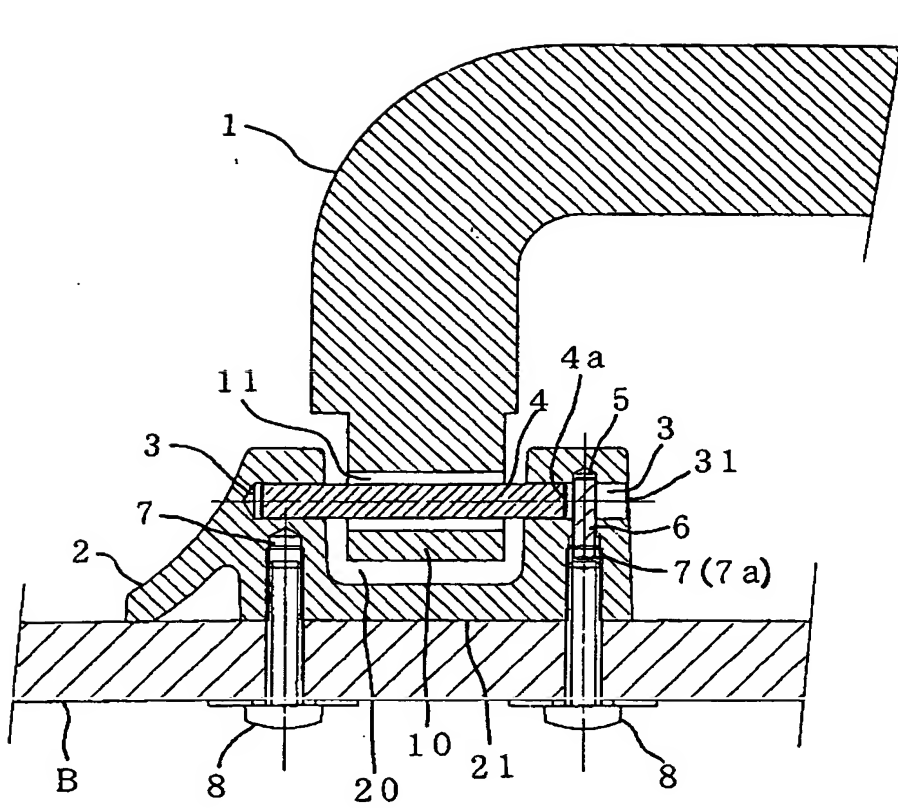
B …… かばん本体

【書類名】 図面

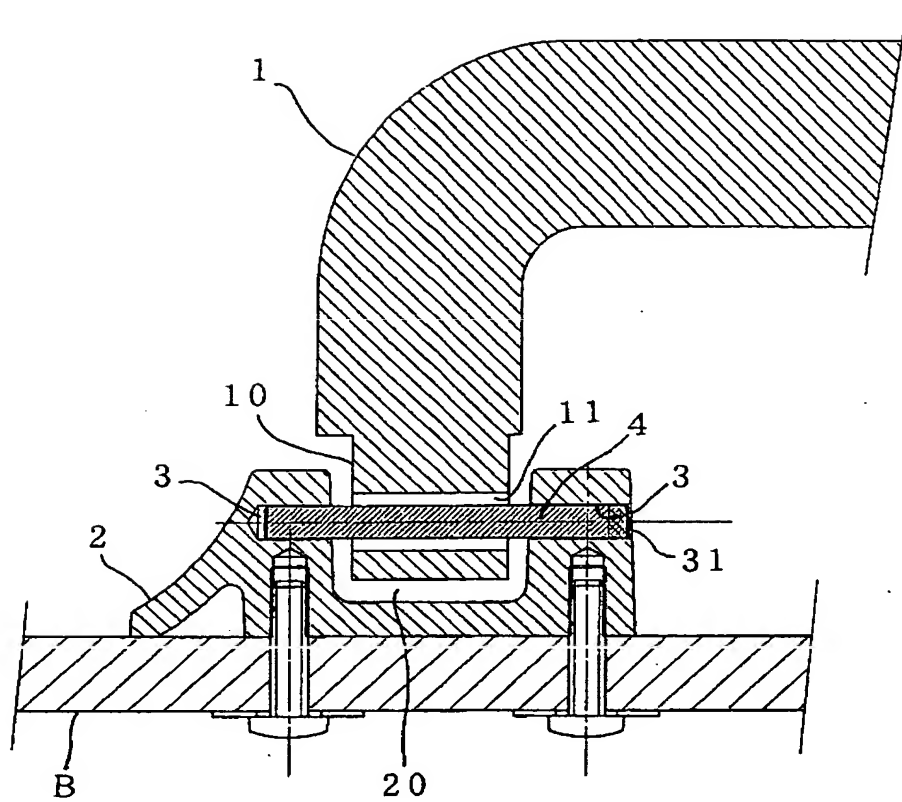
【図 1】



【図 2】



【図 3】



【書類名】 要約書

【要約】

【課題】 簡単な構造であって精密な加工精度をも要せずに、部品の加工・組立等の作業性向上と確実性が得られ、かつ、使用に際しては、振動などによる衝撃から生ずる提げ手軸の緩みなどによる抜け落ち等の虞れのない強度に富んだ提げ手取付構造をを提供する。

【解決手段】 かばん用提げ手の端部に設けた通孔を貫通する提げ手軸により軸支して、提げ手を回動自在にかばん本体へ取付けるかばん用提げ手の取付構造であって、取付けに用いる前記取付金具の、提げ手の前記通孔を挟む位置に、前記通孔と中心が一致するように軸穴を設け、前記軸穴に直交貫通するように抜止め穴を設け、前記提げ手軸を前記軸穴に挿着した後、前記抜止め穴に抜止め軸を挿入する取付構造とする。

【選択図】 図 1

出 願 人 履 歴 情 報

識別番号 [000004075]

1. 変更年月日	1990年 8月22日
[変更理由]	新規登録
住 所	静岡県浜松市中沢町10番1号
氏 名	ヤマハ株式会社